

年祭活動の三年間 **シペースと勇みで**

立教185年6月22日

片山幹太

思います。 今日は二 つのことをお話したいと

一つ目は、 教祖年祭活動について

半分位だったということもありま も良い成績でした。今よりも体重が 走なら全力疾走でしょう。 しょう。当時は足が速かったのです。 トル走がありましたが、私は意外に るときのこと、体育の授業で80メー した。アメリカの中学校に通って 私は子供の頃、走るのが速い方で 50メートルや10メートルの短距離

りゆっくり走りながら最後に帳尻を ないかと思います。 合わせるような走り方になるのでは 長距離マラソンでは、短距離走よ

離を長距離のようにゆっくり走ると、 余力を残して終わってしまいます。 ると途中でバテてしまいます。 逆に長距離を初めから全力疾走す メート ルの中距離はなかなか 短距

夕づとめ 午後7時00分 繋がるように思いました。 ペース配分が難しいのです。

〒 763-0223 香川県丸亀市本島町泊 268 天理教本島大教会

福島 06/7-27-3321 (代) [編集室 R.220625-0628-17 奈良県天理市指柳町 270-1 本島詰所 〒 632-0093 電話 0743-63-1571 (呼)

午前6時00分

https://www.honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間 【6月1日~8月31日】

朝づとめ

うっかりすると重心が後ろになって とが大切になります。 目標に向かってあきらめずに走るこ 置くために、まず目的意識をもち、 しまいがちです。そこで重心を前 か前に進みません。常に重心を前 心が後ろに下がってしまうとなかな 前へと置くことが大切です。しかし そのほかにも、走るとき身体の 重

うことが大事だと思います」とお話 の中で表統領が「3年と仕切って、 長としてすべきこと』インタビュー ますと、「みちのとも」6月号『教祖 3年間を同じ力でつとめ続けるとい 百四十年祭三年千日を前にいま教会 何故こんな話をしたのかと言

重心を前に置く姿勢ではないかと思 とは、ペースであり、 いうことです。そのために大切なこ 3年間、同じ力でつとめ続けると 「勇む」という

スを作るために、小さいことではあ そこでまず3年間続けていくペー

以前の「こどもおぢばがえり」のよ

りに一生懸命走りながら、バテない て走り続けることが一番好タイムに ように走る。自分のペースを見定め それな

ので、まず今は心の準備を始めさせ 定めさせて頂きたいと思っています 年間丸々勤められる何かを、皆で心 て頂きましょう。 三年千日は同じ力で続けられるよ 途中でリタイアのないように3

運ぶ。毎日具体的に誰かのたすかり

これまで一度のところを二度三度と

ような運び方ができるようにさせて

例えば、

をお願いづとめさせて頂く。

少年会本部では「夏休みこどもひの 入れ準備を進めて下さっています。 きしん」と題して子どもたちの受け 二つ目は少年会行事についてです。 今年の夏も昨年とおなじように、

りますが、私は自分のスマートフォ るよう設定しました。 ンに毎日午後2時、 そして教祖が現身を隠され、 アラームで震え

もらいたいと思っています。 な方のところ。足を運び続けられる 内の方々のところ、おたすけが必要

頂きたい。信者さんのところや、

また、いろんな所へ足を運ばせて

えました。

毎日意識することから始めたいと考

たすけに扉を開かれた午後2時を

し下さったからです。

中おぢばで伏せ込むひのきしんをさ うなことは行われませんが、夏休み せて頂けることになっています。

います。 おぢばがえりすることは難しいと思 が積極的に動き出さないと、子供は ということは少ないでしょう。大人 多くおぢばへお手引きしましょう。 子供から「おぢばへ連れて行って」 そこで少年会員や学生を一人でも

立を願い出て会長になられました。 身の方ですが、66歳のときに教会設 鈴木コハル先生は、本島の新在家出 を感じることは大変大切なことです。 12歳から18歳までは、佐藤栄佐先 本宮濱分教会の初代会長様である 子供の時から親神様、教祖、

てお道からもちょっと離れる時期が その後18歳で結婚され、本島を出 御神楽を教えてもらったそうです。

社をまわっていたそうです。そして 生に連れられて信者さんのお宅の講

生え、おさづけの理を拝戴し、51歳 とき、お孫さんに身上を見せられた から本格的に布教に出られました。 きて、お道を頼りたいという心が芽 ことから、このお道の教えがピンと ところが鈴木コハル先生が45歳の

> 思います。 に至ったのでした。66歳で会長にな ることは、なかなかすごいことだと それから15年間布教して教会設立

とお道を仕込むのに、若すぎること 歳のとき、すでにお道の御用のお手 はないということです。 伝いをしていたこと。それを考える ここで大切なことは、12歳から18

ませんが、立派なようぼくへ導いて じて頂きたい。必ず若いうちに、心 祖の思召や温かい親心を少しでも感 的におぢばへお連れし、親神様、 じると、将来何年先になるか分かり 頂けるのではないかと思います。 が柔らかいときにその親心を肌で感 どうか少年会員、学生たちを積極

ちをおぢばへと声を掛けさせて頂き たいと思います。 今年の夏休みは積極的に子どもた

皆楽しそうにされている姿を拝見し でよろしくお願いいたします。 記念祭はありがとうございました。 動めさせて頂きたいと思いますの これからもお互い勇ませ合いなが 想像していたより明るく賑やかに、 最後になりましたが、創立12周年 私自身も感激いたしました。

(文責・本島通信編集室)

本島大教会 神殿講話 (要旨)

【立教18年6月22日】

喜びづくめの信仰を 親神様の教えに心を沿わせ 大教会役員 片山好治

難いことであります。 せて頂けるということは、誠に有 でありますから、皆が親元に帰ら 大教会は、私達みんなの親教会

う世情にあって、さぞ気配り、ご ます。様々な困った事情が立て合 すけ活動、誠にご苦労様でござい れましては日々、国々所々でおた 教会長ようぼくご一同様におか



しゃることと思います。 りたくても帰れず、恋しい気持ちを 苦心、ご苦労の多いことかと思います。 つのらせておられる方も大勢いらっ また、今までと違って大教会へ帰

誠にお慶び申し上げます。 月次祭を滞りなく勤めさせて頂き 教会長様を芯に心を合わせ、六月の こそお帰り下さいました。只今、大 吉日に向けて、喜び一杯の心でよう 皆様方におかれましては、今日

の人は尊い親神様のみ教えを広く世 山様には親神様の思召に心を開ても 佐藤栄佐先生を初め敬遠して、離れ らわないといかんのだ。そして、こ よう、遠ざかろうとしておりました。 しかし栄佐先生は「どうしても、片 さて片山好造会長様は、 布教師

に部内教会長、教人、ようぼく、信

さづけをお取次ぎ下さいました。
け、遺言状を認めてまでの真実のお
決して心離さず、必死で我が命をか
決して心離さず、必死で我が命をか

郎先生は仕込みの親であります。
の高橋直秀先生は教えの親であります。河原町の深谷源次郎先生、深谷徳の高橋直秀先生は教えの親であります。越乃國

条にお通り下さいました。
きくなったら親孝行しようね」といきくなったら親孝行しようね」とい

このような真実誠の先生方の親心の中にお導き頂き、本島は「親孝心」の信仰信念と、「世界たすけに勇む」の信仰信念と、「世界たすけに勇む」という熱き、志を持って進み、そして「ならん中、通りにくい中。その中を通るのが道や。運び難い中運び、中を通るのが道や。運び難い中運び、中を通るのや。その道は楽々に歩けるめるなぁと言われるところまで道をめるなぁと言われるところまで道をめるなぁと言われるところまで道をめるなぁと言われるところまで道をいました。有難いことであります。本島大教会では、歴代会長様を芯いました。有難いことであります。

せて頂いております。 召に沿えるよう、皆勇んでつとめさ会長様を芯に前進を誓い、教祖の思年を歩み続け、現在は片山幹太大教年をがある。一手一つにたすけ合って120

ります。
尽くすことは、真に有難いことであ
親あって私達であり、親に孝養を

と思います。

かったらどうなるでしょうか。せられなかったり、合わせる心がながっていても、自分から進んで合わがったり、合わせる心がない親を持ち、素晴らしい教会に繋

私達は、信仰の元一日を知れば、

のような中も大丈夫、安心して歩むました。だからこそ、今、私達はど陽気ぐらしへの道標を残して下さいからないのがあれ、後に続く私達のために、親のないがあれ、後重の道中も親神様、教

をしっかりと見つめ、胸に治めたいてしまわないように、何時も元一日へを、我が身可愛い人間思案で変えれを重ね、親々が定めて下さった

時には心を倒し、通るべき道を見失いそうになることもあるかもしれません。でも私達には親が居て下さいます。胸の内を正直にが居て下さいます。胸の内を正直にが居て下さいます。胸の内を正直にが居て下さいます。自分のほこり、で親の声を聞き逃してしまわないくるはずであります。自分のほこり、へで親の声を聞き逃してしまわないように、素直な心を忘れず、親が歩ように、素直な心を忘れず、親が歩んで下さったようにどんな道中も先の楽しみを思って通らせて頂きたいものでございます。

せんに一つもちがう事なしこのよふをはじめた神のゆう事に

子 たすけたいとの心ばかりで月日にハせかいぢうゝハみなわが(第1号43)

ふじゆうなきやうにしてやらうてる (第十四号35)のわ たすけるもよふばかりをもにちノ\にをやのしやんというも

かみのこゝろにもたれつけ

ことが出来るのであります。

を中心にして重っていては、記号の 大田思案、我が身可愛い一杯の思い 自然に開かれてくるのであります。 自然に開かれてくるのであります。 自然に開かれてくるのであります。 人間思案、我が身可愛い一杯の思い 人間思案、我が身可愛い一杯の思い

人間思案、我が身可愛いという自分を中心にして通っていては、泥沼の中でもがき苦しんでいる様なことに中でもがきす。だから無条件で素直に自分なります。だから無条件で素直に自分が大切です。素直に自分を変えていがなくてはなりません。自分が変わったくてはなりません。自分が変わったくてはなりません。自分が変わったくてはなりません。自分が変わったくてはなりません。自分が変わったくてはなります。

人間は生まれたのも、育てて頂いたのも、たすけて頂いたのも皆、親かけ頂いている御恩を深く感じ取り、神様のお陰であります。人間は、おかけ頂いている御恩を深く感じ取り、

第八号4)

ど、喜び多い人生を送らせて頂けます。ご恩報じをさせて頂ければ頂くほ

たの実践であります。
て、四年後、教祖44年祭をつとめさて、四年後、教祖44年祭をつとめさせて頂く。とご発表下さいました。

教祖は世界中の人間を一人も余され、貧に落ち切らねば、難儀なる者れ、貧に落ち切らねば、難儀なる者の味が分からん。水でも落ち切ればにして返す。」人の難儀が分からん事では本当に人をたすけることは出来ない。苦しんいる人たちと同じ立場にいて返す。」人の難儀が分からん事では本当に人をたすけることは出来ない。苦しんいる人たちと同じ立場にりを置き、親身になって寄り添ってこそ、本当にたすけ上げることが出来るのだと、御自らをもってお示し下さいましたのが教祖ひながたの道であります。

たこともありました。
「憑きものならば退いてくれ」と迫って、夫善兵衛様が白刃を持ち出され、あらゆる反対攻撃の中から始まっ対、親戚知人の反対、君、対の反対と、対が、親戚知人の反対、対が、親戚知人の反対、 まず家族の反

く浪速の町へおつかわしになられま様を、十三峠を越えて神名を流すべ母屋を売り払われ、十七才のこかん、夫善兵衛様のお出直しのふし、

あります。
にをいがけの時旬が立て合ったのでい出来事と、世界たすけの門出たるした。夫の出直しという人生の悲し

だこともありました。 なながま かをいざ潰そうと暴れ込んで来て がをいざ潰そうと暴れ込んで来て がながれて太鼓を切る、提灯を切り ないで表しいで、自分の商売 ないが、で、自分の商売 ないが、という無礼の振る舞いに及ん ないが、自分の商売

どん底に落ちても、 柔らかく温かな心をもって包みこむ も高い品物であります。つまり、ど ことを少しも気になされず、刃で来 ように。そして何事も不足の心を使 て来ても、先々カーっと心乱したり わらかでフワフワしていて、 のでございます。真綿は綿以上にや たら真綿で受けよとお諭し下された 仕込み下されているのでございます。 わないように通らせて頂くことをお 人を恨んだり、憎んだりしない様に、 のような辛い困ったことが起こっ また教祖は、食べる米のない貧の しかしながら、教祖はこのような 保温力

激しい迫害干渉も物の数ともなされと心明るくお通り下さり、迫りくるが結構にお与え下されてある。」

む「一に勢い」の貴いひながたでありなる困難の中をも喜び勇んで突き進ず、真に教祖の歩まれた道こそいか

神一条の使命を達成するためには、神一条の使命を達成するためには、防固としてやるという、困難にくじり、この気概がまた、ひながたを慕り、この気概がまた、ひながたを慕り、この気概がまた。

ました。
明治14年かんろだい石ふしんのと
まで来た時、動かなくなって「ヨイました。ちょうどその時に、教祖がまで来た時、動かなくなって「ヨイまとお声をおかけ下さると、皆も一気に押して、ツーっと動き出し

て通る道ではない。また通れる道で もない。それを人間思案で上手に もない。それを人間思案で上手に らったり、尻ごみをして、果ては道 らったり、尻ごみをして、果ては道 のであります。ひながたを思い、そ のであります。ひながたを別い、そ

り と入れ替わるのでございます。 が如く、陽気あふれる晴天の日の心か り、あたかも夜明けに東の空の白む

我々が日常些細な事で人生を恨み、たがたを胸に描く時、その恨みも腹立ちも消え去って、自ずから反省と立ちも消え去って、自ずから反省と立ちも消え去って、自ずから反省と立ちも消え去って、自ずから反省と立ちも消え去っても、ひながたを思いし落胆したり、あるいは得意になり、あるいは得意になり、を思い自覚と信念が起こって来ます。真来の道への新しい希望が湧き、力強来の道への新しい希望が湧き、力強来の道への新しい希望が湧き、力強来の道への新しい希望が湧き、力強来の道への新しい希望が湧き、力強い自覚と信念が起こって来ます。真いつもわらはれそしられて、めづ

み、勢いであります。 いつもわらはれそしられて めづいのもわらはれそしられて (三下9目) がみているきをしずめ (四下9目) がみているきをしずめ (四下9目) がみているきをしずめ (四下9目) を進む。これが道を歩ませて頂く私き進む。これが道を歩ませて頂く私

招集されて、「形のふしんを通して次三代会長様は、部内教会長様方を今から63年前の昭和3年、片山俊

陸との段差の少ない時の潮位をよく

こ。殿移転建築ふしんを打ち出されましぬのふしんをさせて頂こう」と、神

もったお言葉を頂かれました。談され、真柱様より温かい親心のこ

当初大教会長様が思っておられたのは小さな神殿でありましたが、二でとに段々と図面は大きくなり、つごとに段々と図面は大きくなり、ついにこのような立派な有難い神殿の

先生よりお仕込みがありました。 いの持ち方、つとめ方について、当神殿ふしんに向かうに当たっての

その内容は「一番大切なことは果たして皆がやる気があるかないか、たして皆がやる気があるかないか、う心構え、どうでもやらせてもらおう心構え、どうでもやらせてもらおうと言う強固な心定めがまず第一であり、これがすべての元である上から、流される時旬の理を喜んで受けて、勇んでつとめさせて頂こうとする心に神様が乗って、ご守護を下さる心に神様が乗って、ご守護を下さる心に神様が乗って、ご守護を下さる心に神様が乗って、ご守護を下さる心に神様が乗って、ご守護を下さる心に神様が乗って、ご守護を下さる心に神様が乗って、ご守護を下さる心に神様が乗って、可な会は自分の教会は自分の教会などと、も間違いない。

にだける」とのお仕込みでした。 いである。誰のことでも無い。みなら、人のことである。人のことと問うならずせて頂く。この心定めがつくならば、必ずや結構なご守護をお見せいただける」とのお仕込みでした。

大教会長、部内教会長、教人、ようぼく、信者様方一同は、中山為信うばく、信者様方一同は、中山為信とっかりと治め、全身全霊、身も心も尽くしっかりと治め、すべて我がこととしっかりと治め、すべて我がこととし運び、ひのきしん・おたすけのました。

本島大教会の神殿は、中山正善二代真柱様の深い親心のまま思い通りにつくられた神殿であります。片山につくられた神殿であります。片山につくられた神殿であります。片山のまま、お声のまま、ただ素直にのまま、お声のまま、ただ素直に真っ直ぐに受け、また部内教会長一点、同じく素直にそのまま受け取っ同、同じく素直にそのまま受け取っ同、同じく素直にそのままで、すべて我がことと我が身思案を活て切って、尽くし運び、暑い日も、雨降る中も雪降る中も、風強き日も勇み、また建築用材はすべて船で運ばれてくるため、荷揚げべて船で運ばれてくるため、荷揚げへて船で運ばれてくるため、荷揚げ

がった神殿ふしんであります。死でひのきしんに明け暮れて出来上年はじめ総動員で昼夜を問わず、必年はだめに短時間で行うため、女子青

だ捧げるだけの尊き伏せ込みの思い ひとりが、何からでもお役に立ちた られた方々、オール本島の皆さま一人 に誘導し、身上者の方、歳を重ねて来 し、鼓笛隊は毎日ひのきしん隊を現場 その内、海外教会の多くの教友も帰っ 七万八千四百五十一名の参加を頂き、 3年にわたって実施し、延べ人数 0) 山 つとめさせて頂きました。 い、何からでも喜んで頂きたいとのた て来られ、学生諸君は各休み毎に参加 筋で、神殿ふしんを喜び感謝の心で 詰まった理の立ったふしんを丸 俊次大教会長様を芯に、誠真実 本島大教会の神殿ふしんは、片

手が終わると今度は御簾を一斉に上 自標様をお遷り頂き、正面玄関より 目標様をお遷り頂き、正面玄関より 目標様をお遷り頂き、正面玄関より に、一番前一列の御簾を、18名の係 に、一番前一列の御簾を、18名の係 に、一番前一列の御簾を、18名の係 に、一番前一列の御簾を、18名の係 に、一番前一列の御簾を、18名の係 が踏み台に上がって一斉に下ろし、

> じようにお遷り頂き、中段に来たら と再び旧教会へ。教祖お目標様も同 げ、そして献饌させて頂く。 時50分終了と同時に神殿両外側の提 れた中、神々しく勤められ、午後10 たって奏楽し、厳かで緊張感に包ま 供をして、やはり中段まで進んでく 旧教会へ。中山家の霊様は二代真柱 せて頂き、開扉、参拝が終わるとま 御簾を一斉に下げ、お社にお鎮めさ に歴史に残る一夜を飾りました。 され、新神殿の目を見張る景観と共 灯、参道に連なる提灯も一斉に点灯 お鎮めさせて頂き、お参拝されたら ると、御簾を一斉に下ろし、お社に た一斉に御簾を上げて献饌。そして 斉に御簾を上げ献饌をさせて頂く。 この時は、楽人10名以上の大合奏 中、箏の音も入り、長時間にわ 本島関係の霊様は大教会長がお

俊次大教会長様はただ感謝とお礼の人」についてのお言葉を頂き、片山真柱様からは「心の掃除」「心の成

言葉ばかりでありました。

いたことがあります。 誠の心や。と仰ったというお話を聞 の中身の餡が出てきました。それが しますると、指と指の隙間から饅頭 お渡しになり、力一杯ににぎりしめ 心ですか」とお尋ねをすると、お手 なされ。と仰いました。その通りに 元にあった饅頭をその人の手の上に ある人が、教祖に「誠とはどんな

でございます。 のであります。 もと、力を出し切る事が誠に繋がる 思案を捨て切って、どうでもこうで 神様を信じ、おもたれをし、人間 真にありがたいこと

も、低く、低く、流れていく。「風 がえらせ、自分は汚れて捨てられて 様の汚れを洗い取り、その物をよみ 続けさせて頂く。「水」のように他人 すと、「火」のように、自分が灰にな いるのでございます。 でありながら、自分の存在を消して て、無くてはならない。絶対の存在 はこの世、地上に生きるモノにとっ るまで明るさと温かさを出し尽くし、 水・風」の守護から学ばせて頂きま 私達のつとめ方について、「火・

火・水・風の如く、 自分を主張す

> り立っています。 の心豊かな、嬉しい、楽しい、頼も るのではなく、ただただ捧げるだけ しいつとめ方をさせて頂きましょう。 社会は人間の知恵と理性を基に成

せん。 案の世界並みの道ではありません。 様は子供可愛い、子供たすけたい一 せて頂く、ただ一筋の道しかありま 神一条の道は、教祖ひながたを歩ま 道は、神一条の道であって、人間思 対として成り立っております。親神 条の親心であります。信仰者の進む 信仰の世界は、親神様の教えを絶

頂きましょう。 ように何時も心引き締めて通らせて 世界並みの道に引きずり込まれぬ

界中の身上事情に悩む人々に一人で 感激を持て、勢いを出せ」を心に置 をさせて頂きましょう。 も多く日々教祖の教えのお取り次ぎ すことに懸命にお通り下さいました。 いて、教祖の道具衆として、広い世 道の者は、感激が財産です。「勇め、 好造会長様は勇み、喜び心を増や

本宮濱分教会4代会長就任奉告祭

岡山県瀬

芦内



妻(随行・篠原丕王准役員)を迎え、4代会長就 たが、去る6月19日午前11時より、 氏の教会長任命の理のお許しを戴いておりまし 市邑久町)では、2月26日のお運びで岩橋秀一 任奉告祭を執り行いました。参拝者29名。 本宮濱分教会(岩橋秀一会長、

大教会長夫

奉告祭を迎えることができました。 親神様・教祖お目標様と祖霊様を同教会内の客間へご遷座申し上げ、 時祭典変更願」と併せて「神殿修築願」の理のお許しを戴き、6月6日 ス感染の影響を受け延期。このふしを生かし、5月26日のお運びでは「臨 会長家族で神殿内陣ならびに参拝場の内壁を漆喰で塗り直し、心新たに 当初、就任奉告祭は3月に執り行う予定でしたが、新型コロナウイル

初代が誓った親神様との約束は今の私たちの約束でもあります。」と末代 について御用を勤められたことを振り返り、「教会の元一日に立ち返り、 濱分教会初代会長鈴木コハル先生が、12歳から18歳まで佐藤栄佐先生 18日に鎮座祭を勤め、19日の奉告祭で挨拶に立った大教会長は、



ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

頂こうと述べられました。 14年祭活動に向かって勇んで勤めさせて へと続く心の向きを諭され、来たる教祖

めが勇んで勤められました。 信者のほか、親族や教友も集い、 この記念祭には教会に繋がるようぼく

成6年1月5日、おさづけの理拝戴。立教10年4 26日、本宮濱分教会4代会長拝命。 検定合格。同日、教会長資格登録。立教18年2月 第二専修科卒業。立教18年10月18日、 月25日、教人登録。立教18年3月9日、 岩橋秀一氏略歴 昭和50年5月8日生まれ。平い時にはいます。 教会長資格 天理教校

7

六月月次祭 祭典役割

山下英久・茶屋原良昭・滑川

吉田晴雄・向所隆文・原口実・伝 供 老木邦光・永山晴明・献饌長 寺本教生 奥村龍夫・伊東康成・高垣光治・ 雲庵春彦・片山直明・吉田知彦・ 善久・村田輝夫・大矢万三・

長尾海和・白垣初生・寺本邦一・ 髙島栄造・長濵充憲・岩橋守行・ 佐々木徳太郎(順不同) 鎌田康典・鎌田仁史・白垣俊生 伊東賢太郎·内橋和博·伊東慎平· 雅楽奉仕者 池田恒治・上山薫 上山康雄・川村吉夫・溝口晋

祭

主

小 す 太 拍 ち り 子 んぽ が 子 ぽ 鼓 ね 鼓 木 ん 神 胡三 τ 地 を 殿 どり 講 牧大 野 教 話 弓線 方 道会 昭長 片 片向長向牧窪寺雲吉 池片会岩高大 西老片 座りづとめ 田山 長橋島教 尾所野田本庵田 Щ 山木山 田さわみ 長 夫 人 長 夫 人 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 扈 澄隆道靖教道晴 道邦 好 者 榮子子文昭明生延雄 教光勲 岡﨑八十則西 山道 教 片山真喜代 黒 展 田 実 展 尾 海 和 実 の の まち子 山下英名 岡岩奥伊後永長吉 てをどり前半 橋村東藤山濵田 元龍康正晴充知 久 行 則 代ゑ実夫成治明憲彦 賛 者 谷 原 菅 茶 鎌 大 寺 井 岩 宫伊吉木髙高 滑片雲 てをどり後半 後 永 口岡和和 屋原良 田矢本上橋 典万邦 守 川山庵 藤島 善直春 正宗 ^介子 子 美 昭 夫 三 一 力 行 久 明 彦 治行

六月月次祭祭文

立教百八十五年六月二十二日

ざいました びと御礼の心で創立百二十年記念祭を滞り なく勤めさせて頂きました。 さて先月二十一日には大教会へお帰り頂 私共は常に思召を体して御恩にお応えした 成人の道へとお導き下さいます御高恩の程 絶え間ないお慈みと限りない御守護を賜り 望み下さる深い親心のまにまに、長の年限 慎んで申し上げます。 王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太 よりご参拝頂いた皆様と共に一手一つに喜 た皆様また帰参が叶わぬなか国の内外各地 勇み下さいますようお願い申し上げます 実の状をもご覧下さいまして親神様にもお 御前には道の子供達が同じ思いに御礼申し てをどりを陽気につとめさせて頂きます 仕者一同心を一つに合わせて、座りづとめ 日柄でございますので只今からおつとめ奉 当大教会の六月の月次祭を執り行う定めの 親神様には、一れつの子供の成人をお待ち 上げ喜びを心に湛えて尚もおすがりする真 めさせて頂いておりますが、今日の吉日は これの神床にお鎮まり下さいます親神天理 いと届かぬながらもたすけ一条の上につと 誠に有難く勿体ない極みでございます 誠に有難うご

と本島につながるよふぼく信者として教祖 私共は次の塚であります教祖百四十年祭へ のひながたに心を合わせ、成人と人たすけ

御用につとめ切らせて頂く所存でござい

までの間「本島鼓笛隊・夏季特別合同練習 えり」を、また七月二十七日より三十一日 尚七月二十六日より八月一日の期間、 会」を実施させて頂きます 会本島団として「本島大教会夏のおぢばが

道にお連れ通り下さいますよう一同と共に 賜り一層のお導きを以て、陽気ぐらしへの 何卒、親神様には、この上共変らぬ親心を せて頂きたいと存じます 庭でおぢばに帰らせて頂き喜びの種を蒔か そのうえから、それぞれの教会で、また家

(原文のまま)

慎んでお願い申し上げます。

入社祭

(立教185年6月22日)

▼赤峰△向所未奈△向所葵△向所楓

6月22日(水) 【香川県丸亀市】

天 候 曇一時雨後晴 霧を伴う

最高気温 平均気圧 1007.9 hPa 平均湿度 86 % 平均風速 日照時間 降水量

最低気温 21.6℃ 29.1℃ 1.9 m/s 5.5 時間

1.5 mm

8

ひのきしん隊13名参加おやさとふしん青年会

青年会本島分会(片山秀明

13・16・17・18日の6日間、おやさとふしん青年会ひのきしん隊第93回隊に13名が入隊しん隊第93回隊に13名が入隊した。

所解体と、田植えを行いましめのきしん内容は旧本芝詰めのきしん内容は旧本芝詰いる。

新型コロナウイルス感染防



親里の田植えについて、天理時報(6月29日号第8面)で詳細に紹介されています。 また本島大教会創立120周年記念祭の記事も掲載されました。





思いました。

デーションがとても美しいとが切れる山裾までの白いグラトルの尾根は層雲に隠れ、雲

関より正面の山の樹木を撮影

したものです。標高約15メー

島は終日雨に包まれました。

梅雨の季節、6月21日の本

上の写真は、大教会神殿玄

【本島通信編集室より】

と生ノ浜の2ヶ所から発生し

20年前の8月、本島の大浦

島面積の4分の1に当たる約た山林火災は1週間燃え続け、

160診が焼失しました。
ちょうど「少年会おつとめたくさんの煙が立ち上がりまたくさんの煙が立ち上がりまたくさんの煙が立ち上がりまたた。
それも今や二昔前のこと。それも今や二昔前のこと。
もの縁はさらに深くなり、島島の縁はさらに深くなります。
なの写真は、教職舎前の百右の写真は、教職舎前の百右の写真は、教職舎前の百ちず

す。とてもきれいでした。



提出教会

おさづけお取り次ぎ報告

立教18年6月22日

報

告数

1,2890 19教会

攝良分会

香川靖

幸

以

上

本年累計

7、603回

事情はこび

のお運びはありませんでした。 立教185年6月26日、 本島関係

おさづけの理拝戴

花 (立教185年5月分) 奥村由多加

栄森峰

田

邊

實

[計2名]

本備前 伊 東 慎 平

【計1名】

(立教18年5月) 16 日 付

22 日、

25 日

(立教185年6月10日修了) 大教会長動向 ▼フ月(予定)▲

6 日 3日、香川教区役職者会議 本部神殿奉仕当番

永田成美

[計1名]

18 日 那波分教会巡教 **本京分教会巡教**

かなめ会委員会 修養科総立まなび 大教会月次祭執行 教会長夫妻特別講習会

26 日 本部月次祭 鼓笛隊開講式 かなめ会

鼓笛隊閉講式 教会長夫妻特別講習会

以

上

ろくち会(立教18年6月分)

新信峰

宮澤侑希

字野竜太朗

中籔小有里

肥後八峰 肥後八峰

大 野

智

香

大野 菅岡綾

智

夏 音

(計4名)

台

檀

Melissa Ann So

【計5名】

香葉子 · 幹太郎 · 好次 · 昇太△片

▼本島△片山幹太・片山かおり

本水島

山口嘉名子

本中國

篠原

希

31 日

養科第70期修了

(立教18年6月27日修了)

ご芳志に厚くお礼申し上げます ちよ ▼樺太分教会 ▼本樺△大 山秀明△長尾真実・幸太△藤山さ ド△片山和信・陽子・昇慶・竜次 上ほの香・はる香・太吉 ▼本髙分教会 ▼ポートラン ▼崇徳分 ▼本浜

立教18年5月付

創立 120 周年記念祭の記念写真 ダウンロードできます



①写真プリント用データ 42MB https://onl.la/G5HVFri ワイド 4 切サイズ $(366 \text{mm} \times 254 \text{mm})$

プリントに最適です

②スマートフォン表示用 6MB https://onl.la/qZT8HY6 スマートフォンで見る のに最適なサイズです

ダウンロードできない場合は、USBメモリを詰所事務所(横関茂治)へ お持ち下さい。コピーいたします。

計(5月1日~31日)

IIAP	PI	()	, , ,	ш	0	ш/	
教会名		初席	中席	おうけの理	修養料	教人講習	検定講習
本	室		2				
御幸	濱		1				
本 静	濱		1				
本	花		1	1			
倉	峰	1					
栄 森	峰			1			
實	峰		1				
大隅聖	峰		1				
大駿	峰	2					
別	峰		1				
文	峰	1					
都	峰					1	
合	計	4	8	2	0	1	0



夏休みこどもひのきしん

【少年会本部】

●期間:7月26日~8月28日 (会場によって開催日、開催時間が 異なります)

-- 〈会場〉 -

- ●ひのきしんセンター(インフォメー ションセンター北側) 受付時間:9時~16時
- ●西泉水プール前広場
- ◇ピッキーひろば
- ●南右第二棟
- ◇ほんわかシアター(地下1階)
- ◇ピッキーとリボンの宇宙探検(地下 2階)
- ◇みちの子作品展(1 階)
- ◇みちのこサマーステージ(陽気ホー ル)
- ●天理参考館
- ◇おやさと謎解きウォーク in 参考館

夏のおぢばがえり

【少年会本島団】

本島大教会夏のおぢばがえり

- ■期間:7月26日(火)~8月1日(月)
 - 〈内容〉 -
- ■おぢばでひのきしん! ひのきしんのお世話取りをします

(本部廻廊ひのきしん、トイレ掃除、 境内地除草、詰所ひのきしん等)

●お楽しみ行事

本部行事(夏休みこどもひのきしん) へお世話取りいたします

- 〈諸注意〉 -

- ●詰所での宿泊、食事申込みは各自 お早めにお願いします。
- ■お問合せ窓口:岩橋竜造 090-9046-1398

https://www.honjima.com/

本島大教会ウエブサイト

鼓笛隊夏季練習

【本島団鼓笛隊】

本島団鼓笛隊 夏季特別合同練習会

- ●期間:7月27日~7月31日
- ■会場:本島詰所
- ●日程:7月27日午前9時集合、午 後8時半解散。28日~30日、午前 7時集合、午後8時半解散。30日 午後6時半、詰所4階講堂にて演 奏会。31 日午前、特別企画鼓笛お 供演奏及びオンパレード。31日午 後2時頃解散
- ※ 入浴・宿泊・送迎は各教会や家族 単位でお願いします。鼓笛隊では 食事と練習時間のみ預かります。
- ●参加対象:小学1年生より高校3 年生までの男女(幼稚園児不可)
- ●会場:本島詰所(集合・解散は4階 講堂前)
- ●食事御供:3000円(宿泊御供は各自 詰所事務所へお納めください)
- ●持ち物:ドリーム隊ユニフォーム の下に着る白ブリーフとノース リーブの白Tシャツ2枚(ドリーム 隊のみ)、白靴、上履き、楽器、楽譜、 マスク、薬、体調管理表、健康チェッ ク用紙
- ■お問合せ先:鎌田典夫

06-6432-1727

総会と夏のつどい

【少年会本島団】

立教 185 年少年会本島団総会と夏のつどい

- ■期日:8月21日(日)午前10時受付 ~午後8時半解散
- ●会場:本島大教会
- ■対象:少年会員(未就学の少年会員) には引率者の付き添いをお願いし ます)
- ●参加御供:なし
- ●携行品:ハッピ(準備できる人だけ で結構です)、白靴下、マスク、水 着、ビーチサンダル、帽子、着替え、 タオル、洗面具、保険証
- ●内容:お願いづとめ、よろづよ八 首総立ち、総会、記念撮影、海水浴、 本島ナイト
- ■諸注意:発熱、体調不良の場合は 参加をご遠慮ください。プログラ ム途中までの参加でも可能です。 宿泊はそれぞれの部屋でお願いし ます。引率者の中で可能な方は海 水浴の監視をお願いします。

帰ってきたウィーケン隊

【青年会本島分会】

● 日時:7月16日(土)~18日(祝)16時

■場所:大教会

●内容:ひのきしん、雅楽練習、和太

鼓練習

大教会7月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- ■対象:7月22日大教会7月月次祭に 参拝できないため、ライブ中継視聴 を希望する方
- ●申込方法:

メールで、live@honjima.com に

「ライブ希望」と「教会名・ 氏名」を記入してお申し 込みください。当日朝 「ライブ希望」と「教会名・ ライブ視聴できるアド



- レスをメールでお知らせします。 ●申込締切:7月21日午後5時まで
- ●ご注意:ライブ中継は毎月のお申 し込みとなります。

7月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・食堂ひのきしん〉

●期間:7月21日~22日

■派遣教会:本廣

〈詰所・食堂ひのきしん〉

●期間:7月25日~26日

●派遣教会:澁谷①、本京①、琴浦①

〈鼓笛隊ひのきしん〉

- ●期間:7月27日~31日
- ●派遣教会:本承徳、崇徳、本廣、本勇、 本九台、赤峰、各教会1名

にをいがけ名簿提出教会(6月) 2 倉 峰 本 樺 10 本府中 8 7 栄東峰 室 崇 徳 9 4 本 京 1 6 本 8 本宣道 峰 本 草 69 本陽山 2 實 峰 8 本千代 6 本新田 31 峰 46 20 攝泉 1 赤峰 本備前 5 豪峰 40 計 19 教会 255名